

4 学習指導案

2年次

本時のねらい	前年度学習した礼法や基本動作、剣道具の扱い方の復習を行うとともに、単元目標を設定することができる。		2-①
	学習活動	指導・支援の留意点	指導者が必要な知識・技能
はじめ 20分	1 整列、あいさつ 正座、黙想、座礼 2 本時の学習内容をつかむ。 3 竹刀の扱い方を確認する。 4 垂、胴の着け方を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 姿勢や礼法を確認する。 本時の学習内容について説明する。 竹刀を扱う上での注意点を説明する。 垂、胴の着け方を生徒同士で確認させながら注意点を説明する。 	※1年次指導案参照
なか 25分	5 基本動作の復習をする。 (1)自然体 (2)中段の構え (3)構え方、納め方 (4)足さばき(歩み足、送り足) 6 素振り (1)上下振り (2)斜め振り (3)空間打突(すり足、踏み込み足) ①正面打ち ②右小手打ち ③右胴打ち	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの内容について示範を交えて説明し、2人1組でお互いに向かい合って行わせる。 立礼、蹲踞、お互いに構えたときの間に注意させる。 上下振り、斜め振りは「1, 2, 3, …10」と回数を大きく発声しながら振るように指導する。 空間打突は、教師の号令に合わせて「メン」「コテ」「ドウ」と打突部位大きく発声でできるだけ一拍子で打たせる。すり足から踏み込み足へと発展させる。 竹刀の振り上げ、振り下ろしには肩関節を十分に活用させる。 手先だけでなく、相手の小手が見える程度に振りかぶって打たせる。 振り下ろしたときに左こぶしを腰の高さにして、体の正中線から外れないように気をつけさせる。 	※1年次指導案参照
まとめ 5分	7 整列、評価、あいさつ 本時の学習評価 正座、黙想、座礼 8 剣道具の片付け	<ul style="list-style-type: none"> 本時のまとめをする。 姿勢や礼法を確認する。 剣道具の片付けを確認する。 	

本時のねらい	基本の打ち方を復習することを通して、剣道具を着けた相手への打ち込み、一本打ちの技ができる。		2-②
	学習活動	指導・支援の留意点	指導者が必要な知識・技能
はじめ 20分	1 剣道具（垂、胴）を着ける。 2 整列、あいさつ 正座、黙想、座礼 3 本時の学習内容をつかむ。 4 素振り (1)上下振り (2)斜め振り (3)空間打突（面、小手、胴）	<ul style="list-style-type: none"> • 剣道具の着け方を生徒同士で確認させる。 • 姿勢や礼法、剣道具（垂、胴）の着装を確認する。 • 本時の学習内容について説明する。 • 振りかぶり、発声小さくならないように気をつけさせる。 	
なか 25分	5 剣道具（面、小手）を着ける。 6 剣道具を着けた相手への打ち込み（すり足で一步前）を行い、基本の打ち方を復習する。 (1)正面打ち：相手の剣先が横に開いたとき (2)右小手打ち：相手の剣先が上がったとき (3)右胴打ち：相手の手元が上がったとき 7 一本打ちの技（踏み込み足で打突し送り足で前に抜けて残心）を復習する。 (1)正面打ち (2)右小手打ち (3)右胴打ち 8 打ち込み稽古① ・正面－小手－胴の順で打突する。	<ul style="list-style-type: none"> • 2人1組で着けさせる。 • 剣道具（面、小手）の着装を確認する。 • 竹刀の安全点検をさせる。 • 一足一刀の間合から打たせる側が打突部位をあける瞬間を見計らって、すり足で前に一步出て打突させる。 • できるだけ一拍子で打つことを心がけさせる。 • 相手との間合に留意し、剣先を相手の両眼の間につけ、前に出て打つ気持ちを充実させ、一足一刀の間合から一拍子で踏み込み足を使って打突し、送り足で前に打ち抜けて残心を示す習慣を身につけさせる。 • 打つ側は相手が指示した打突部位を的確に捉え、正しい姿勢で適切な間合から刃筋正しく一拍子で打ち込むように指導する。 	※1年次指導案参照 ※1年次指導案参照 ※1年次指導案参照 ※1年次指導案参照
まとめ 5分	9 整列、評価、あいさつ 本時の学習評価 正座、黙想、座礼 10 剣道具の片付け	<ul style="list-style-type: none"> • 本時のまとめをする。 • 姿勢や礼法を確認する。 • 剣道具の片付けを確認する。 	

本時のねらい	連続技（二段打ち）、引き技を復習し、互格稽古での攻防に活かすことができる。		2-③
	学習活動	指導・支援の留意点	指導者が必要な知識・技能
はじめ15分	1 剣道具（垂、胴）を着ける。 2 整列、あいさつ 正座、黙想、座礼 3 本時の学習内容をつかむ。 4 素振り (1)上下振り (2)斜め振り (3)空間打突（面、小手、胴）	<ul style="list-style-type: none"> 剣道具の着け方を生徒同士で確認させる。 姿勢や礼法、剣道具の着装を確認する。 本時の学習内容について説明する。 振りかぶり、発声小さくならないように気をつけさせる。 	
なか30分	5 剣道具（面、小手）を着ける。 6 面の一本勝負をする。 7 連続技の復習をする。 (1)小手一面 (2)面一胴 8 引き技の復習をする。 (1)引き面 (2)引き胴 9 打ち込み稽古② 正面→小手→胴→面・胴→小手・面の順で打突する 10 互格稽古（30秒）	<ul style="list-style-type: none"> 2人1組で着けさせる。 剣道具の着装を確認する。 竹刀の安全点検をさせる。 教師の「はじめ」の号令で2人同時に面を打たせる。 連続技について説明、示範をし、はじめは一打ごとに大きく、ゆっくり、正確に打たせ、次第に連続して素早く打つように指導する。 鑓ぜり合いからの攻めによって相手の構えが崩れ、隙が生じたところをすかさず退きながら打つことを説明、示範する。 引きながらの打突であっても有効打突にできるよう、刃筋正しく打つことを心がけさせる。 打つ側は相手が指示した打突部位を的確に捉え、正しい姿勢で適切な間合から刃筋正しく一拍子で打ち込むように指導する。 復習した技を用いて、気力を充実させた状態で相手との間合に留意し、自分から先に技を出すことを心がけさせる。 	※1年次指導案参照 ※1年次指導案参照 ※1年次指導案参照 ※1年次指導案参照
まとめ5分	11 整列、評価、あいさつ 本時の学習評価 正座、黙想、座礼 12 剣道具の片付け	<ul style="list-style-type: none"> 本時のまとめをする。 姿勢や礼法を確認する。 剣道具の片付けを確認する。 	

本時のねらい	簡易試合を行う中で、復習してきた技を使って相手との攻防を行うことができる。		2-④
	学習活動	指導・支援の留意点	指導者が必要な知識・技能
はじめ 15分	1 剣道具（垂、胴）を着ける。 2 整列、あいさつ 正座、黙想、座礼 3 本時の学習内容をつかむ。 4 素振り (1)上下振り (2)斜め振り (3)空間打突（面、小手、胴） (4)跳躍素振り	<ul style="list-style-type: none"> ・剣道具の着け方を生徒同士で確認させる。 ・姿勢や礼法、剣道具の着装を確認する。 ・本時の学習内容について説明する。 ・振りかぶり、発声小さくならないように気をつけさせる。 ・跳躍素振りは、はじめはゆっくりとした動作から徐々に跳躍しながら素早く行わせる 	49跳躍素振り
なか 30分	5 剣道具（面、小手）を着ける。 6 約束稽古で前時までの内容を復習する。 （見取り稽古） 7 互格稽古（30秒） 8 簡易試合（個人戦） ・試合時間1分 ・3人1組総当り 審判1人判定基準 ①大きな発声をしている。 ②正しい打突を積極的にしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・3人1組になり、着け方を確認させる。 ・剣道具の着装を確認させる。 ・竹刀の安全点検を行わせる。 ・復習した技の中から自分のやりやすい技を選び、相手と打つ、打たせることを約束した上で練習させ、得意技を身につけさせる。 ・3人1組で、2人で練習している様子を1人が見て、気づいたことをアドバイスしながら交代して行わせる。（見取り稽古） ・復習した技を用いて、気力を充実させた状態から相手との間合に留意し、打突の機会を見つけたらすかさずに打突することを心がけさせる。 ・審判方法や有効打突の判定基準を全体で確認し、1審制で試合を行う 	※1年次指導案参照 ※1年次指導案参照 ※1年次指導案参照
まとめ 5分	9 整列、評価、あいさつ 本時の学習評価 正座、黙想、座礼 10 剣道具の片付け	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のまとめをする。 ・姿勢や礼法を確認する。 ・剣道具の片付けを確認する。 	

本時のねらい	払い技を学習し、自分の持ち技を増やすとともに互格稽古での攻防に活かすことができる。		2-⑤
	学習活動	指導・支援の留意点	指導者が必要な知識・技能
はじめ 15分	1 剣道具（垂、胴）を着ける。 2 整列、あいさつ 正座、黙想、座礼 3 本時の学習内容をつかむ。 4 素振り (1)上下振り (2)斜め振り (3)空間打突（面、小手、胴） (4)跳躍素振り	<ul style="list-style-type: none"> ・剣道具の着け方を生徒同士で確認させる。 ・姿勢や礼法、剣道具の着装を確認する。 ・本時の学習内容について説明する。 ・振りかぶり、発声が小さくならないように気をつけさせる。 	
なか 30分	5 剣道具（面、小手）を着ける。 6 前時の復習をする。 (1)1本打ちの技 ①正面打ち ②右小手打ち ③右胴打ち (2)連続技 ①小手一面 ②面一胴 (3)引き技 ①引き面 ②引き胴 7 払い技の学習する (1)払い面 (2)払い小手 8 打ち込み稽古③ 正面→小手→胴→面・胴→小手・面→ 面・引き面→面・引き胴→面の順で打突する。 9 互格稽古（1分）	<ul style="list-style-type: none"> ・3人1組になり、着け方を確認させる。 ・剣道具の着装を確認させる。 ・竹刀の安全点検を行わせる。 ・一足一刀の間合から一拍子で踏み込み足を使って打突し、送り足で前に打ち抜けて残心を示す習慣を身につけさせる。 ・連続して素早く打つように指導する。 ・引きながらの打突であっても有効打突にできるよう、刃筋正しく打つことを心がけさせる。 ・相手の構えが十分で打ち込む隙がないとき、相手の竹刀を右また左に払って構えを崩すと同時に打突する技であることを説明、示範する。 ・払うときは、左腰、左こぶしを軸に右手首を柔らかくして両手で弧を描くように払い、すかさず刃筋を正して身体全体で踏み込み、一拍子で打突するよう指導する。 ・打つ側は相手が指示した打突部位を的確に捉え、正しい姿勢で適切な間合から刃筋正しく一拍子で打ち込むように指導する。 	50払い技 払い面、払い小手 ※1年次指導案参照
まとめ 5分	10 整列、評価、あいさつ 本時の学習評価 正座、黙想、座礼 11 剣道具の片付け	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のまとめをする。 ・姿勢や礼法を確認する。 ・剣道具の片付けを確認する。 	

本時のねらい	抜き技、出ばな技を学習し、自分の持ち技を増やすとともに互格稽古での攻防に活かすことができる。		2-⑥
	学習活動	指導・支援の留意点	指導者が必要な知識・技能
はじめ 15分	1 剣道具（垂、胴）を着ける。 2 整列、あいさつ 正座、黙想、座礼 3 本時の学習内容をつかむ。 4 素振り (1)上下振り (2)斜め振り (3)空間打突（面、小手、胴） (4)跳躍素振り	<ul style="list-style-type: none"> 剣道具の着け方を生徒同士で確認させる。 姿勢や礼法、剣道具の着装を確認する。 本時の学習内容について説明する。 振りかぶり、発声小さくならないように気をつけさせる 	
なか 30分	5 剣道具（面、小手）を着ける。 6 前時の復習をする。 (1)払い技 ①払い面 ②払い小手 7 抜き技を学習する。 (1)小手抜き面 (2)面抜き胴 8 出ばな技を学習する。 (1)出ばな面 (2)出ばな小手 9 打ち込み稽古 (1)打ち込み稽古③ 正面→小手→胴→面・胴→小手・面→面・引き面→面引き胴→面の順で打突する。 (2)打ち込み稽古④ 元立ちが自由に打たせる機会を与えて打たせる方法 10 互格稽古（1分）	<ul style="list-style-type: none"> 3人1組で、着け方を確認させる。 剣道具の着装を確認させる。 竹刀の安全点検を行わせる。 抜き技について説明し、はじめは一足一刀の間合から大きく、ゆっくりとすり足で行わせる。 相手に抜くことを察知されないよう相手が打ってくるぎりぎりまで構えを崩さず、相手の打突を迎え入れるように抜くことを意識させる。 出ばな技について説明し、相手が打てる距離に近づいたらすかさず打突するようにさせ、徐々に相手がせめて出ようとする動作や打突の起こりを捉えて打てるようにさせる。 打つ側は相手が指示した打突部位を的確に捉え、正しい姿勢で適切な間合から刃筋正しく一拍子で打ち込むように指導する。 	51抜き技 小手抜き面、面抜き胴 52出ばな技 出ばな面、出ばな小手 ※1年次指導案参照 ※1年次指導案参照
まとめ 5分	11 整列、評価、あいさつ 本時の学習評価 正座、黙想、座礼 12 剣道具の片付け	<ul style="list-style-type: none"> 本時のまとめをする。 姿勢や礼法を確認する。 剣道具の片付けを確認する。 	

本時のねらい	既習した技の復習をし、打突の機会を意識しながら、自分の持ち技を増やすとともに互格稽古や試合での攻防に活かすことができる。		2-⑦
	学習活動	指導・支援の留意点	指導者が必要な知識・技能
はじめ 15分	1 剣道具（垂、胴）を着ける。 2 整列、あいさつ 正座、黙想、座礼 3 本時の学習内容をつかむ。 4 素振り (1)上下振り (2)斜め振り (3)空間打突（面、小手、胴） (4)跳躍素振り	<ul style="list-style-type: none"> ・剣道具の着け方を生徒同士で確認させる。 ・姿勢や礼法、剣道具の着装を確認する。 ・本時の学習内容について説明する。 ・振りかぶり、発声小さくならないように気をつけさせる。 	
なか 30分	5 剣道具（面、小手）を着ける。 6 約束手稽古で前時の復習をする。 （見取り稽古） 7 互格稽古（1分） 8 簡易試合（個人戦） ・試合時間1分 ・3人1組総当り 審判1人 判定基準 ①大きな発声をしている。 ②正しい打突を積極的にしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・3人1組で、着け方を確認させる。 ・剣道具の着装を確認させる。 ・竹刀の安全点検を行わせる。 ・復習してきた技の中から自分のやりやすい技を選び、相手と打つ、打たせることを約束した上で練習させ、得意技を身につけさせる。 ・3人1組で、2人で練習している様子を1人が見て、気づいたことをアドバイスし合いながら交代して行わせる。（見取り稽古） ・復習してきた技を用いて、気力を充実させた状態から相手との間に留意し、打突の機会を見つけたらさかさずに打突することを心がけさせる。 ・審判方法や有効打突の判定基準を全体で確認し、1審制で試合を行う 	53打突の機会 ①相手の構えが崩れ、隙ができたところ ②相手が動作を起こすところ ③相手が退いたところ ④相手が打ち終わったところ
まとめ 5分	9 整列、評価、あいさつ 本時の学習評価 正座、黙想、座礼 10 剣道具の片付け	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のまとめをする。 ・姿勢や礼法を確認する。 ・剣道具の片付けを確認する。 	

本時のねらい	有効打突の見極め方を学習し、簡単な規則で試合を行い、攻防に活かすことができる。		2-⑧
	学習活動	指導・支援の留意点	指導者が必要な知識・技能
はじめ 15分	1 剣道具（垂、胴）を着ける。 2 整列、あいさつ 正座、黙想、座礼 3 本時の学習内容をつかむ。 4 素振り (1)上下振り (2)斜め振り (3)空間打突（面、小手、胴） (4)跳躍素振り	<ul style="list-style-type: none"> 剣道具の着け方を生徒同士で確認させる。 姿勢や礼法、剣道具の着装を確認する。 本時の学習内容について説明する。 振りかぶり、発声小さくならないように気をつけさせる。 	
なか 30分	5 剣道具（面、小手）を着ける。 6 約束稽古で練習する。（見取り稽古） 7 打ち込み稽古 (1)打ち込み稽古③ (2)打ち込み稽古④ 8 3人組による試合（個人戦） <ul style="list-style-type: none"> 試合時間1分 審判1人制 有効打突の見極めについて <ul style="list-style-type: none"> ①打突部位に当たっている ②発声をしている ③相手の反対側へ抜けている 	<ul style="list-style-type: none"> 3人1組になり、着け方を確認させる。 剣道具の着装を確認させる。 竹刀の安全点検を行わせる。 復習してきた技の中から自分のやりやすい技を選び、打突の機会を意識しながら、相手と打つ、打たせることを約束した上で練習させ、得意技を身につけさせる。 3人1組で、2人で練習している様子を1人が見て、気づいたことをアドバイスし合いながら交代して行わせる。（見取り稽古） 打つ側は相手が指示した打突部位を的確に捉え、正しい姿勢で適切な間合から刃筋正しく一拍子で打ち込むように指導する。 試合の進め方、有効打突の見極め方や審判法について説明する。 自分の得意技を積極的に出していくように心がけさせる。 礼法をしっかりと行わせる。 	※1年次指導案参照
まとめ 5分	9 整列、評価、あいさつ 本時の学習評価 正座、黙想、座礼 10 剣道具の片付け	<ul style="list-style-type: none"> 本時のまとめをする。 姿勢や礼法を確認する。 剣道具の片付けを確認する。 	

本時のねらい	簡単な規則による試合を行う中で、これまで学習してきた技能を活かした攻防を行うことができる。		2-⑨
	学習活動	指導・支援の留意点	指導者が必要な知識・技能
はじめ15分	1 剣道具（垂、胴）を着ける。 2 整列、あいさつ 正座、黙想、座礼 3 本時の学習内容をつかむ。 4 素振り (1)上下振り (2)斜め振り (3)空間打突（面、小手、胴） (4)跳躍素振り	<ul style="list-style-type: none"> ・剣道具の着け方を生徒同士で確認させる。 ・姿勢や礼法、剣道具の着装を確認する。 ・本時の学習内容について説明する。 ・振りかぶり、発声小さくならないように気をつけさせる。 	
なか30分	5 剣道具（面、小手）をつける 6 約束稽古で練習する。（見取り稽古） 7 試合（3組による団体戦） <ul style="list-style-type: none"> ・試合時間1分 1本勝負 ・審判3人制（あいている組） 有効打突の見極めについて <ul style="list-style-type: none"> ①打突部位に当たっている ②発声をしている ③相手の反対側へ抜けている 	<ul style="list-style-type: none"> ・3人1組で、着け方を確認させる。 ・剣道具の着装を確認させる。 ・竹刀の安全点検を行わせる。 ・復習した技の中から自分のやりやすい技を選び、相手と打つ、打たせることを約束した上で練習させ、得意技を身につけさせる。 ・3人1組で、2人で練習している様子を1人が見て、気づいたことをアドバイスしながら交代して行わせる。（見取り稽古） ・試合の進め方、有効打突の見極め方や審判法について説明する。 ・自分の得意技を積極的に出していくように心がけさせる。 ・礼法をしっかりと行わせる。 ・3人による審判（多数決）なので、旗の表示を正確に行うように指導する。 	
まとめ5分	8 整列、評価、あいさつ 本時の学習評価 正座、黙想、座礼 9 剣道具の片付け	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のまとめをする。 ・姿勢や礼法を確認する。 ・剣道具の片付けを確認する。 	

本時のねらい	簡単な規則による試合を行い、自分の得意技を積極的に出して攻防を行うことができる。		2-⑩
	学習活動	指導・支援の留意点	指導者が必要な知識・技能
はじめ 15分	1 剣道具（垂、胴）を着ける。 2 整列、あいさつ 正座、黙想、座礼 3 本時の学習内容をつかむ。 4 素振り (1)上下振り (2)斜め振り (3)空間打突（面、小手、胴） (4)跳躍素振り	<ul style="list-style-type: none"> ・剣道具の着け方を生徒同士で確認させる。 ・姿勢や礼法、剣道具の着装を確認する。 ・本時の学習内容について説明する。 ・振りかぶり、発声小さくならないように気をつけさせる。 	
なか 30分	5 剣道具（面、小手）を着ける。 6 約束稽古で練習する。（見取り稽古） 7 試合（3組による団体戦） <ul style="list-style-type: none"> ・試合時間2分 3本勝負 ・審判3人制（あいている組） 有効打突の見極めについて <ul style="list-style-type: none"> ①打突部位に当たっている ②発声をしている ③相手の反対側へ抜けている 	<ul style="list-style-type: none"> ・3人1組で、着け方を確認させる。 ・剣道具の着装を確認させる。 ・竹刀の安全点検を行わせる。 ・復習してきた技の中から自分のやりやすい技を選び、相手と打つ、打たせることを約束した上で練習させ、得意技を高めさせる。 ・3人1組で、2人で練習している様子を1人が見て、気づいたことをアドバイスしながら交代して行わせる。（見取り稽古） ・試合の進め方、有効打突の見極め方や審判法について説明する。 ・自分の得意技を積極的に出していきように心がけさせる。 ・礼法をしっかりと行わせる。 ・3人による審判（多数決）なので、旗の表示を正確に行うように指導する。 	
まとめ 5分	8 整列、評価、あいさつ 本時、単元の学習評価 正座、黙想、座礼 9 剣道具の片付け	<ul style="list-style-type: none"> ・本時及び単元のまとめをする。 ・姿勢や礼法を確認する。 ・剣道具の片付けを確認する。 	